

先日、皆さまの念願のおかげさまで、ローマでの素晴らしい会議のご修行をさせていただくことができました。

その中で何点か頂いたことがありましたので、今日はそのことを申し上げたいと思います。

よく大導師さまが「3歳の子供から学べ」というお話をされていましたが、人の話を聞く、特に年下の方たちの話に耳をちゃんと傾けるということが大切だという体験をしました。

出発前、久々の海外なので、宮本事務局長に「海外はどうなのですか？」と聞くと「荷物がなくなることが多い」というのです。

私は念願はもちろんのこと、素直に聞いて対策をいたしました。

すると、宮本事務長の言った通り、私の飛行機に預けていた荷物がどこかに行ってしまったんです。

しかし、宮本事務局長から話を聞いていたおかげさまで、ちゃんと対応ができて、無事に手元に戻ってきたのです。

何を言いたいかということ、素直に人の話を聞く、相手の年は関係なく、心配してくれる人の話はあるがたいと思って聞くことが大切だということです。

もうひとつ、今回の会議の責任者である、うちのレベッカさんという女性の方、大導師さまとも親しかった方なのですが、その方が

最後に関係者に感謝を述べる場面がありました。

すると私に「来てくれてありがとう。大導師さまが見守ってくださっていたから、素晴らしい会議ができた」と涙声で言うのです。

その言葉を頂いて私は、受け入れる側は感謝を持って修行していかなければならないということ頂きました。

どんなに良い計画を立てられていたとしても、受け入れる側に感謝がなければ、その通りにはならず、何か大きなアクシデントが起きるといふことがあるのです。

私たちは長年み教えについていますと、感謝も感動も薄れ「当たり前」になってしまい、さらにひどいのは、頂いたお慈悲を負担にしてしまうのです。すると、順序がつかなくなってしまうのです。

今回のローマでの会議全てがご順序でした。

その中で一番感じたことは、感動や感謝を薄くしてはいけいな、受け止める側の心一つだなということです。

そして、私が霊界で頂いていておりましたことがあります。

今まで、12月14日が納めの供養会ですが、今年から28日を納めの供養会といたします。

会主さまの月の命日を納めとすることが大切なのです。

最後にそれを申し上げて、妙智會は全てを霊界から頂いておりますので、信じ切って、今日からご修行をお願いいたします。